



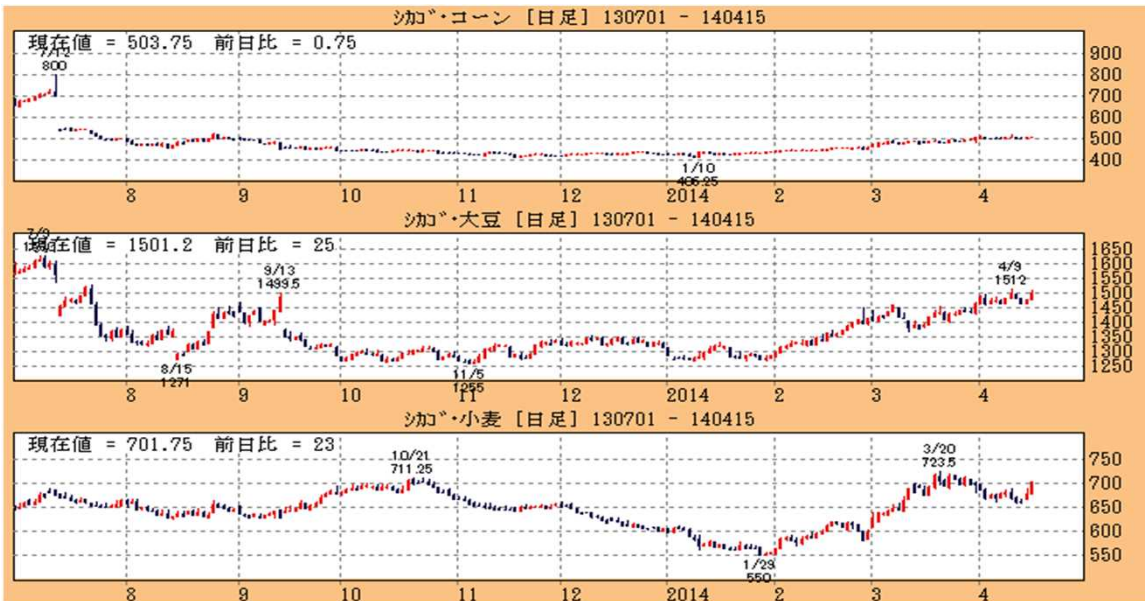
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

大豆と小麦が大幅高

発行日 : 2014/4/16



4月15日のシカゴトウモロコシ5月限0.75セント高の503.75セント。前日日後半の弱基調を引き継いで安寄りしたあとも、5ドル超えの売りが続いてじり安となり、大台を下回った。ウクライナ情勢が小康状態に陥ったことから、戻り売りが先行した。ドル高・原油安も圧迫要因。作付け遅れや米中西部の寒波は強材料だが、今後2週間、乾燥した天気が予報されることが相殺した。立会時間は、3.50セント安で寄り付き、時間外取引の安値を下回ったあと、押し目買いで持ち直したが、節目の5ドルではね返されたことから売り直された。朝方の安値を下回り、497.50セント（5.50セント安：1.1%）まで値を消した。しかしながら、前日安値で下げ止まったことから反転、大豆・小麦が上値追いとなったことから抵抗を突破した。ウクライナ東部で軍が新ロシア派勢力の強制排除に着手、同国及びロシアの穀物輸出に対する不透明感が広がり、506.75セント（3.75セント高：0.7%）まで切り返した。ただ、前日高値（507.00セント）目前で上昇が一服したあとは、大豆・小麦の上昇一服や、ドル反発・原油反落で値を消した。ロシア農業省は、4月14日現在のロシア穀物作付面積を210万ヘクタールとし、計画の6.4%終了、前年同期を80万ヘクタール上回った。ロシアの春作物作付面積は3180万ヘクタールの計画で、前年実績を1.7%上回っている。ウクライナ統計局は、4月1日現在のウクライナ穀物在庫を1230万トンとし、前年同月を14%上回った。小麦は450万トン、大麦120万トン、コーン590万トン、ライ麦30万トン。農家保有在庫は前年比27%増加の660万トン、流通業者及び加工業者が保有する商業在庫は1%増加の570万トン。

4月15日のシカゴ大豆5月限は25.00セント高の1501.25セント。大幅続伸。前日後半の上昇に対する反動で売りが先行したが、投機買いが入って前日高値を突破した。期末在庫のひっ迫予想や、ドル安・株高・原油高、テクニカル改善、予想を上回る月間大豆圧砕高をはやし、15ドルを突破して上昇が加速した。8.00セント高で寄り付いたあと、1481.00セントまで後退したが、押し目買いが入って反発に転じ、時間外取引の高値を突破した。ドル安加速や原油・株の反発が強材料。15ドル目前で上昇が一服、外部市場の流れが逆転したことから押されたが、投機筋の押し目買いで抵抗を抜き、1509.25セント（33.00セント高：2.2%）まで値を飛ばした。3月の米油糧種子加工業者協会（NOPA）大豆圧砕高が事前予想を上回ったことが支援材料。昨日の相場で、4月のレンジの下限（1456.00セント）を維持したことから、テクニカルな買い安心感が広がった。一代高値（1512.00セント）にとどかず、利食い売りで上げ幅を削ったが、15ドル台で引けた。米油糧種子加工業者協会（NOPA）が発表した3月の大豆圧砕高は1億5384万Buで、前月の1万4160万Buから増加し、事前予想の1億4460万Buを上回った。大豆油在庫は20億2300万ポンドで、前月の18億9300万ポンドから増加し、事前予想の19億2300万ポンドを上回った。

15日のシカゴ小麦5月限は23.00セント高の701.75セント。2週間ぶり高値。終値の前日比は11.25～23.00セント高、中心限月の5月限は23.00セント高の701.75セントで引けた。5月限は、安寄りしたあと、冬小麦の作柄悪化や米プレーン南部の寒波で反発したが、コーンの下落で673.75セントまで値を消した。しかしながら、ドル安・株高・原油高や大豆の急伸を好感、干ばつに加え最近の寒波で冬小麦の作柄が更に悪化するとの見方で切り返した。ウクライナでは、政府軍が行政施設を占拠している親ロシア派勢力の強制排除を開始、ロシアの軍事介入の可能性が高まったことも買い戻しを誘い、3月28日以来の高値となる702.75セントまで値を飛ばした。ファンダは8000枚の買い越し。（日本先物情報ネットワーク）



TOPICs Crop Progress

トウモロコシ			18州
Planted	前年度	2014年	過去5年平均
4月13日	2%	3%	6%

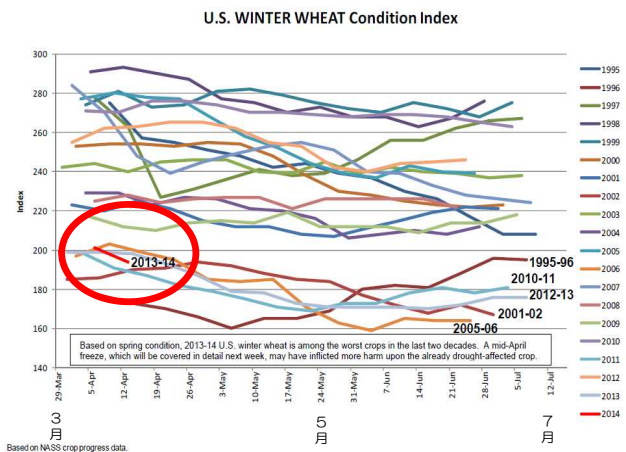
今年二度目のCrop Progressが公表され、4月13日時点でトウモロコシの作付は3%となっている。前年より少し良いが過去5年平均では半分である。

冬小麦のHeadedは5%と昨年より良い。春小麦の作付は昨年並み。下のグラフは、冬小麦の作柄を各年ごとに3月~7月までの間の変化を示したもの。今年は少し悪い状況から始まっている。

冬小麦			18州
Headed	前年度	2014年	過去5年平均
4月13日	4%	5%	NA

冬小麦						18州
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
4月6日	10%	18%	36%	30%	5%	35%
4月13日	12%	20%	34%	30%	4%	34%
前年度	12%	19%	33%	31%	5%	36%

TOPICs 冬小麦の過去の作柄



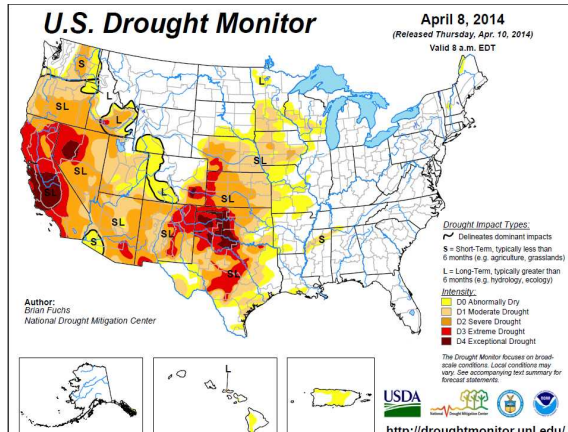
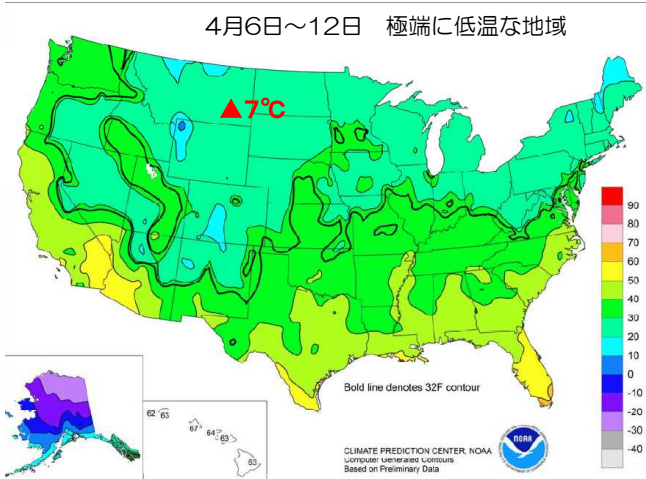
春小麦			6州
Planted	前年度	2013年	過去5年平均
4月13日	6%	6%	NA

TOPICs 米国の天候

コーンベルトは、オハイオ渓谷中流域から五大湖地方南部にかけて雨が雪に変わり、スペリオル湖やミシガン州では雪混じりの氷雨が降っている。昨夜の降雪により、デトロイトやフリントなどミシガン州の一部の観測地点では累計降雪量が史上最高を更新した。五大湖北部では、火曜朝の最低気温が氷点下18℃以下を記録した。

米南部にも寒波が到来、ケンタッキー州やテネシー州では雨が雪に変わった。発芽した夏作物に関して懸念が広がっている。4月13日現在、コーンの発芽はミシシッピ州で28%、サウスカロライナ州25%、アラバマ州17%に達した。米ブレイズは、季節終盤の寒波により、南部の冬小麦に悪影響を与えている。

4月13日現在、小麦の節間伸張期入りはオクラホマ州80%、カンザス州31%、コロラド州6%。テキサス州では16%が出穂している。火曜朝の最低気温は、オクラホマ州からテキサス州西部で0℃を下回り、氷点下4℃以下を記録した地点が多かった。米気象庁は火曜朝、ブレイン中部・南部からミシシッピ渓谷中流域、米南中部に凍結警報を発動した。水曜朝に関しオハイオ渓谷、大西洋岸中部以南、ジョージア州北部、ミシシッピ州、アラバマ州に既に凍結警報が発動された。水曜は、五大湖北部に雪が発達するだろう。週末にかけ、米南東部、米南中部、大西洋岸北西部で雨が予報される。



TOPICs 米国では穀倉地帯に土壤水分不足は特いない



TOPICS 現在はエルニーニョは発生していないが、夏には5年ぶりのエルニーニョが発生する可能性が高い。

(気象庁：エルニーニョ監視速報4月10日発表分)

3月の実況: エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続いている。エルニーニョ監視海域の海面水温は基準値に近い値(基準値との差は -0.1°C)だった(図1、表)。太平洋赤道域の海面水温は、西部で平年より高かった(図2、図4)。海洋表層の水温は、西部から東部にかけてのほぼ全域で平年より高かった(図3、図5)。中部太平洋赤道域の気圧下層の東西風は、平年並だった(図7、図8)。これらの海洋と大気の状態は、エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態を示している。

今後の見通し: 今後、エルニーニョ監視海域の海面水温が次第に基準値より高くなると予測され、夏には5年ぶりにエルニーニョ現象が発生する可能性が高い。エルニーニョ予測モデルは、エルニーニョ監視海域の海面水温が、夏以降、基準値より高い値で推移すると予測している(図9)。また、3月の実況で、太平洋赤道域全体で暖水の蓄積が見られ、この暖水の東進により、東部の海面水温が今後平年より高くなると考えられる。以上のことから、今後、エルニーニョ監視海域の海面水温が次第に基準値より高くなると予測され、夏には5年ぶりにエルニーニョ現象が発生する可能性が高い。

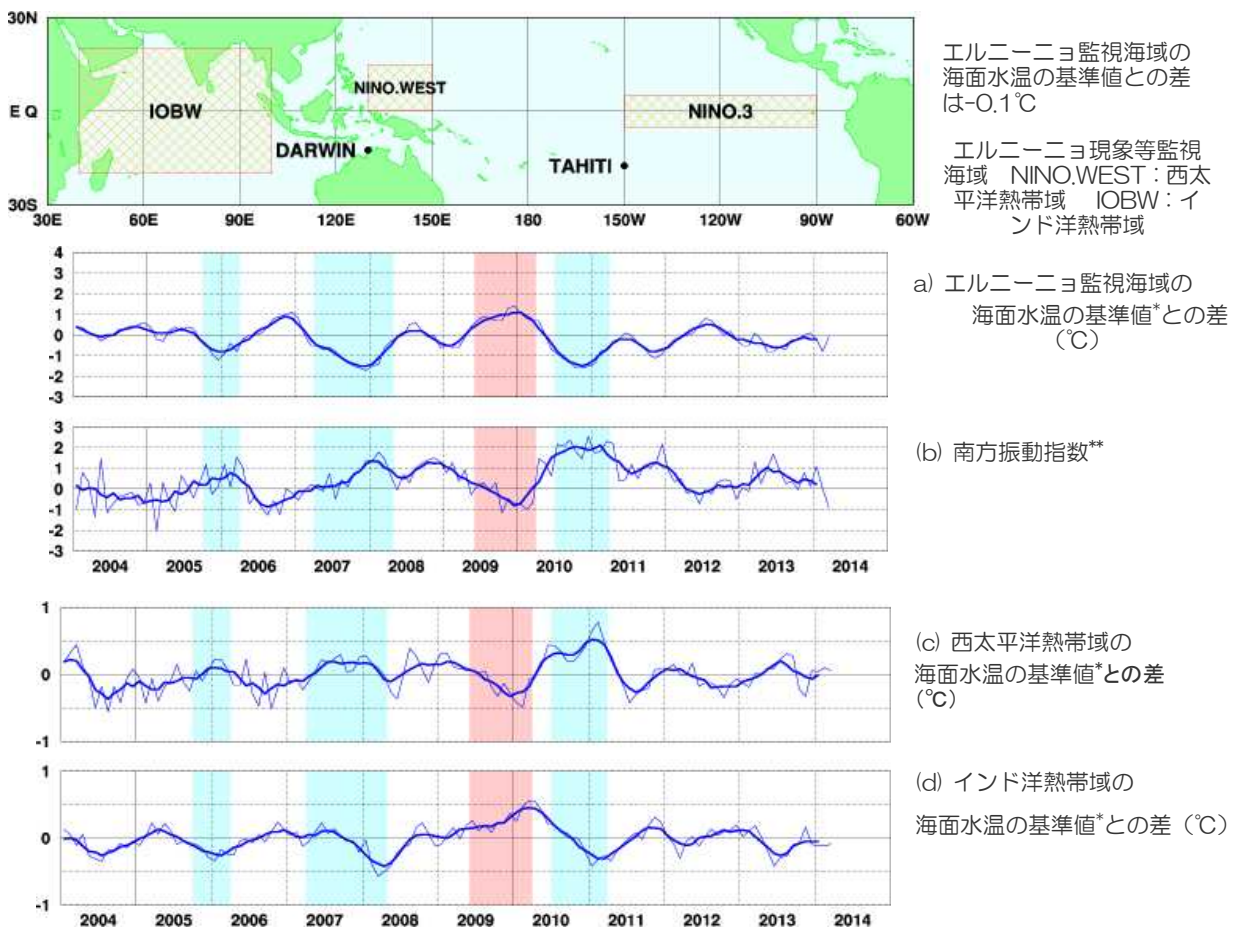


図1 各監視指数の最近10年間の経過

折線は月平均値、滑らかな太線は5か月移動平均値を示す。赤色の陰影はエルニーニョ現象の発生期間を、青色の陰影はラニーニャ現象の発生期間を示している。

*基準値はその年の前年までの30年間の各月の平均値((c)西太平洋熱帯域と(d)インド洋熱帯域では30年間のトレンドも考慮)。

**南方振動指数はタヒチとダーウィン(TAHITIとDARWIN 上図に位置を示した)の地上気圧の差を指数化したもので、貿易風の強さの目安の一つであり、正(負)の値は貿易風が強い(弱い)ことを表している。指数の算出に用いた気圧の平年値は1981~2010年の30年平均値。

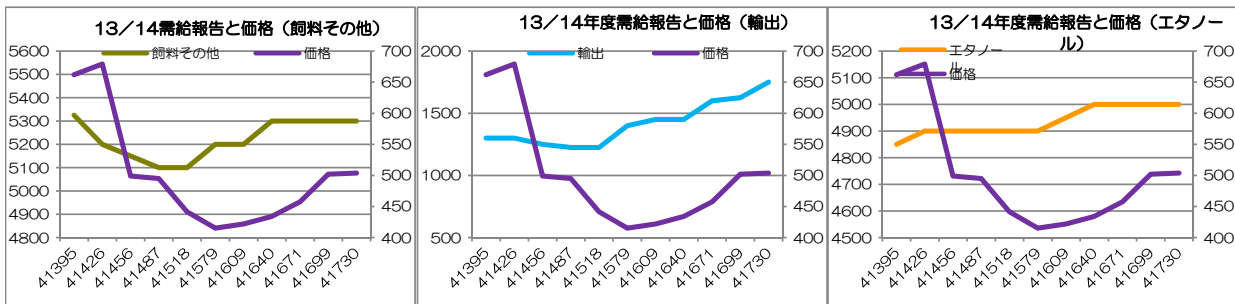


TOPICs 4月の米国農務省需給報告

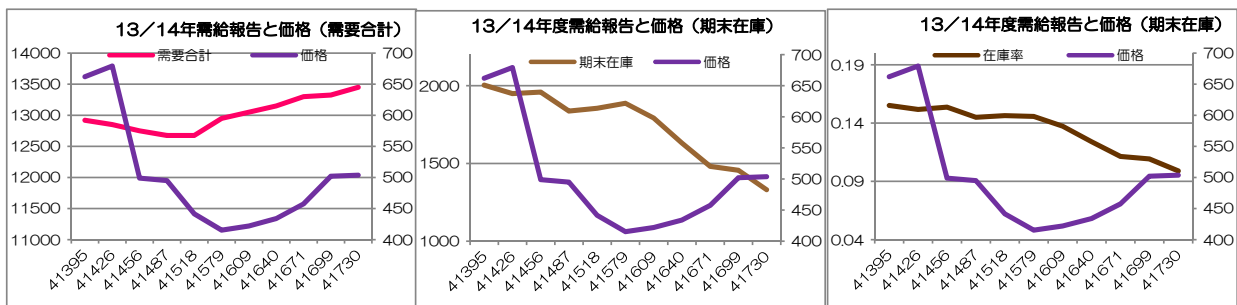
	/2009 10年度	/2010 11年度	/2011 12年度	2012 13年/ 度	2013/14年度								
	4月	4月	4月	4月	12月	1月	2月	3月	4月	前月比	前月比%	前年比	前年比%
百万エーカー													
作付面積	86.4	88.2	91.9	97.2	95.3	95.4	95.4	95.4	95.4	+0.0	+0.0	▲1.8	▲1.9%
収穫面積	79.5	81.4	84.0	87.4	87.2	87.7	87.7	87.7	87.7	+0.0	+0.0	+0.3	+0.3%
ブッシェル/エーカー													
単収	164.7	152.8	147.2	123.4	160.4	158.8	158.8	158.8	158.8	+0.0	+0.0	+35.4	+28.7%
百万ブッシェル													
期初在庫	1,673	1,708	1,128	989	824	821	821	821	821	+0	+0	▲168	▲17.0%
生産	13,092	12,447	12,360	10,780	13,989	13,925	13,925	13,925	13,925	+0	+0	+3,145	+29.2%
輸入	8	28	29	162	30	35	35	35	35	+0	+0	▲127	▲78.4%
供給合計	14,774	14,182	13,517	11,932	14,842	14,781	14,781	14,781	14,781	+0	+0	+2,849	+23.9%
飼料その他	5,125	4,795	4,557	4,333	5,200	5,300	5,300	5,300	5,300	+0	+0	+967	+22.3%
食品・種子・工業用	5,961	6,426	6,428	6,046	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400	+0	+0	+354	+5.9%
エタノール等	4,591	5,019	5,000	4,648	4,950	5,000	5,000	5,000	5,000	+0	+0	+352	+7.6%
国内消費合計	11,086	11,221	10,985	10,379	11,600	11,700	11,700	11,700	11,700	+0	+0	+1,321	+12.7%
輸出	1,980	1,834	1,543	731	1,450	1,450	1,600	1,625	1,750	+125	+0	+1,019	+139.4%
需要合計	13,066	13,055	12,528	11,111	13,050	13,150	13,300	13,325	13,450	+125	+0	+2,339	+21.1%
期末在庫	1,708	1,128	989	821	1,792	1,631	1,481	1,456	1,331	▲125	▲0	+510	+62.1%
在庫率	13.1%	8.6%	7.9%	7.4%	13.7%	12.4%	11.1%	10.9%	9.9%	▲1.0%	▲9.4%	+2.5%	+33.9%

4月のトウモロコシの需給報告では、輸出が125百万ブッシェル増加しただけの改定であった。そのため、需要が同量増加し、期末在庫は▲1.0%減少して1331百万ブッシェルとなり、期末在庫率が10.9%から9.9%に▲1.0%減少した。

TOPICs 需給報告と価格の関係 トウモロコ



飼料その他の需要が減少したときに価格は下落しているが、その後飼料やエタノールや輸出需要が増加するたびにトウモロコシ価格は上昇している。



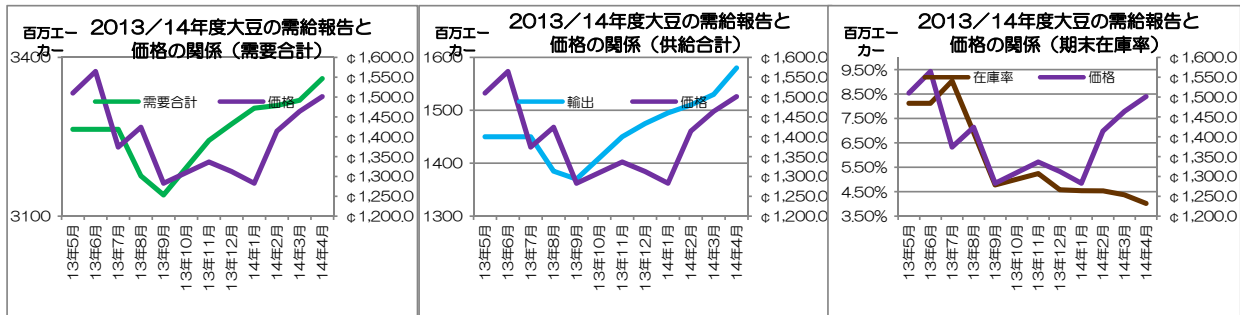
需要の増加により価格が上昇したが、在庫の減少でも価格が増加したともいえる。



TOPICS 大豆の需給報告

	09/10年度	10/11年度	11/12年度	12/13年度	13/14年度								
	4月	4月	4月	4月	12月	1月	2月	3月	4月	前月比	前月比%	前年比	前年比
百万エーカー													
作付面積	77.5	77.4	75.0	77.2	76.5	76.5	76.5	76.5	76.5	+0.0	+0.0	▲0.7	▲0.0
収穫面積	76.4	76.6	73.8	76.2	75.7	75.9	75.9	75.9	75.9	+0.0	+0.0	▲0.3	▲0.0
ブッシェル/エーカー													
単収	44	43.5	41.9	39.8	43	43.3	43.3	43.3	43.3	+0.0	+0.0	+3.5	+0.1
百万ブッシェル													
期初在庫	138	151	215	169	141	141	141	141	141	+0	+0	▲28	▲0
生産	3,359	3,329	3,094	3,034	3,258	3,289	3,289	3,289	3,289	+0	+0	+255	+0
輸入	15	14	16	36	25	25	30	35	65	+30	+1	+29	+1
供給合計	3,512	3,495	3,325	3,239	3,423	3,454	3,459	3,464	3,494	+30	+0	+255	+0
圧砕	1,752	1,648	1,703	1,689	1,690	1,700	1,700	1,690	1,685	▲5	▲0	▲4	▲0
輸出	1,499	1,501	1,365	1,320	1,475	1,495	1,510	1,530	1,580	+50	+0	+260	+0
種子	90	87	90	89	87	87	87	87	95	+8	+0	+6	+0
その他	20	43	-2	1	22	22	12	12	0	▲12	▲1	▲1	▲1
需要合計	3,361	3,280	3,155	3,099	3,274	3,304	3,309	3,319	3,360	+41	+0	+261	+0
期末在庫	151	215	169	141	150	150	150	145	135	▲10	▲0	▲6	▲0
在庫率	4.49%	6.55%	5.36%	4.41%	4.58%	4.54%	4.53%	4.37%	4.02%	▲0.4%	▲8.0%	▲0.4%	▲9.0%

4月の大豆の需給報告では、輸出が5000万ブッシェル増加したが、輸入も3000万ブッシェル増加し、国内の圧砕が減少し、種子が増加し、その他が減少したため、結局需要の増加は4100万ブッシェルで、期末在庫は1000万ブッシェル減少して135百万ブッシェルとなり、期末在庫率は4.02%と非常に少ない状況になっている。



今後の予想

需給報告は、価格を上げる作用があるのは、上記のグラフを見ればわかる。大豆の場合は極端に在庫が少ないため、1月以降価格が上昇している。昨日大豆は大幅に上昇し、既にこうした在庫の希少性が織り込み済みともいえることが価格の予測を難しくしている。トウモロコシについては、前ページのグラフで見るとお椀型の価格の動きをしているが、値上がりの状況は大豆ほどでもないともいえ、上昇余地は大豆よりもあるかもしれない。

米国では各地で春の雪が降っており、低温となっている。今後冬小麦や春小麦の作柄に影響が出るかもしれない。作付に関してはそれほど影響は出ていない模様。後は夏場に5年ぶりに発生する可能性が高いエルニーニョが世界の天候にどのような影響をもたらすかが注目される。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかなるかを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



発行元：

株式会社コモディティ インテリジェンス
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc